

礼讃文（三帰依文）

「一」

人身受け難し、今已に受く。  
仏法聞き難し、今已に聞く。

此身今生にむかつて度せずんば、更に何れの生にむかつてか此身を度せん。大衆もろとも、至心に三宝に帰依したてまつるべし。

自ら仏に帰依したてまつる。当に願わくは衆生とともに、大道を体解して、無上意

を發さん。

みづか 自ら法に帰依したてまつる。当に願わくは衆生とともに、深く経蔵に入りて、智慧海の如くならん。

礼讃文（三帰依文）

「二」

みづか 自ら僧に帰依したてまつる。当に願わくは衆生とともに、大衆を統理して、一切無碍ならん。

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭遇うこと難し。我今見聞し受持することを得たり。願わくは如来の眞実義を解したてまつらん。